

ふつききょう

〒540-0026
大阪市港区波除5-7-6
ハイツニッセイ 201
TEL:06-6567-8071
FAX:06-6567-8089
<http://wwwla.biglobe.ne.jp/~hukikyo/>

第50号 発行：(社福)精神障害者社会復帰促進協会

「ふつききょう」第50号をかさねて

(福)精神障害者社会復帰促進協会
理事長 殿村壽敏

本誌「ふつききょう」は2001（平成13）年12月に創刊号を発行以来、今回で50号を重ねるに至りました。これまで、本誌を愛読し支えて下さった皆々様に、こころからの御礼を申し上げます。

とりわけ、桃山学院大学教授辻井誠人先生には、創刊号から本誌に玉稿を提供して下さり、特別の感謝を申し上げます。ありがとうございます。

創刊号を発行した2001年、4月から当法人は大阪市西成区で「ふれあいの里」の運営を開始し、同年4月からピア・ヘルパー養成研修事業を大阪府の受託事業として実施しました。また2000年度より社会的入院の解消を目的として、同じく大阪府から「退院促進事業」を受託しています。

(詳しい当時の事業の内容は、本誌に挟んでいます創刊号復古版をご覧ください)

この当時、わたくしは大阪府健康福祉部精神保健福祉課福祉グループに勤務しており、直属の上司だった故本宮忠純氏、現当法人本部勤務高井みゆき氏らと共に、これらの事業などに取り組んでいました。2001年夏ころに当法人、当時は財団法人復帰協の梶田由美さん（旧姓奥村、現・高知県中土佐社会福祉協議会勤務・高知県高岡郡四万十町在住）を府庁に招き、同年6月の大阪教育大学付属池田小学校事件の混乱を踏まえ、また復帰協が取組んでいる事業の重要性、加えて将来の発展性の観点から、精神障害(者)についての啓発と情報発信を兼ねた機関誌「ふつききょう」を全国に向けての発行を願ったものでした。梶田さんはこの要請に真摯に応えて下さい、本誌第1号の発刊に至りました。

あれから足掛け15年、先に示した大阪府・復帰協始発のいくつかの事業は国事業になりました。特に「社会的入院解消研究事業」への当時の進取気鋭、躍動感溢れる取り組みの姿勢は全国に復帰協の名前を轟かせ、2004（平成16）年9月の「精神保健医療福祉の改革ビジョン」（厚生労働省）発表の契機にもなりました。

しかし、2012（平成24）年から精神障害者地域移行・地域定着事業を自立支援給付としたことから、事業の勢いは急速に衰え、ビジョンで示した10年間で7万床減も、目標にほど遠い現状です。この歴史は一体何を物語っているのでしょうか。

一人ひとりを大事にする地域福祉を当法人・復帰協は目指します。50号が100号、否それ以上になるその日まで、歴史と実績を誇る復帰協はもっと頑張ります、ご期待ください。

平成27年度 精神障害者社会参加活動振興事業 芸術文化交流展

「こころのミュージック♪」を実施しました。

本年3月25日から27日の3日間、「こころの音楽に触れよう・創ろう・楽しもう」をコンセプトに、「芸術文化交流展・こころのミュージック♪」を大阪市西区の大阪府立江之子島文化芸術創造センターで開催しました。

体験コーナーとして、楽器、声、からだを使って音楽を表現し、トーンチャイムなど今まで使ったことのない楽器に触れて楽しみました。「楽器の見た目と音のギャップにびっくりした」「参加者全員での合唱がすばらしい」などの感想をいただきました。参加延べ人数は59名でした。(プログラムA)

また、プロの音楽家の指導で「ルージュの伝言」(荒井由美)を、3日間でリズム、歌唱、コーラスの3つのパートに分かれて演奏したものを、機械の操作で1曲に重ね録音をしました。

録音した曲を音楽CDに焼いて皆さんで鑑賞しました。(プログラムB)

参加されたさんは、最初は緊張してあまり声が出ていなかったようですが、練習を重ねるうち、声も揃い迫力ある素晴らしいCDになりました。「参加して楽しかった」「自分の声が録音されて嬉しい」などの感想に加え、「すごい、すごい自分達の声がちゃんと音楽になった」と感動する人もいました。参加延べ人数は36名でしたが、CDでは、録音を倍に増幅して72名の出来栄えになっています。

当事者の皆さんによるライブ演奏も行いました。一般の方も聴きにこられ、演奏者との掛け合いに応じるなど、非常に盛り上がったライブ演奏となりました。

最終日27日は松井大阪府知事も出席され、「大阪府現代アートの世界に輝く新星プロジェクト第5回公募入選品展」の表彰式が行われ、式の終了後に神谷徹さんによるストローコンサートを行いました。ストローを使い、いろいろな音楽を演奏し、また、動物の鳴き声を表現するなど、200人近い参加者みんなが楽しみました。小さいお子さんなどは、奏者の前に座りこみ、食い入るように演奏を見聞きし、質問するなど楽しんでいました。

3日間参加された方の感想やご意見を参考にし、次の音楽交流会に活かしたいと思います。

写真は交流会の様子です。

【プログラムA】



【プログラムB】



【ライブ演奏】



【ストローコンサート】



港区障がい者相談支援センター

港区障がい者相談支援センターは、今年で2年目を迎えました。

初年度は、前受託法人から引き継ぎを受けたケースはもちろん、新規相談の支援に注力して参りました。半年間は右も左もわからない状況でしたが、年間3000件を超える相談に対応する中で、港区における様々な地域課題も見えてきたように思います。

当センターが最初に取り組んだことは、区の課題のひとつであった計画相談支援達成率4.3%という現状に対して問題提起を行いました。その取り組みの中で、相談支援事業所立ち上げ研修を企画、また区の相談支援全体の底上げを目的として計画相談支援事業所連絡会を港区保健福祉センター事務局と協働で立ち上げました。その成果として年度末には、計画相談支援達成率を当初の4.6%から21.1%まで引き上げることができました。しかし私どもの目標は、単に達成率を引き上げることではなく、相談支援全体の質の向上・地域における相談支援ネットワークの地盤作りであるため、今後もセンター職員一丸となって、日々の業務に邁進して参ります。

ふつききょう 人物紹介 vol. 2

前回に引き続き、[REDACTED]に携わる職員などの人々と、その仕事にかける想いをご紹介したいと思います。

今回は、当法人で働く新人職員を紹介します。

紹介内容は①自己紹介(名前、年齢、好きな食べ物、趣味、行ってみたい場所)②ふつききょうの第一印象
③働いていくうえでの目標、抱負 となっています。

小崎 朋子

(就労継続支援B型) 初めまして。一昨年 地域活動支援センター おおとりより転勤してきました小崎

朋子と申します。年齢は・・・。好きな食べ物は、甘いものです。特にキャラメルが大



好きです。後、コーヒー。趣味は、今はりませんが、時間があるときは、編み物や、お菓子作りなどしていました。お金と時間があれば行ってみたい場所は、スイスのユングフラウ、オーストラリアのグレートバリアリーフ、あと、オーロラを見に行つてみたいです。(夢はでっかく)ふれあいの里に来た時の第一印象は、職員がとても良く働く方ばかりだと思いました。覚えること多く、老朽化しつつある脳はフル回転しても全然追いつきませんでした。けれど、上司が寛容でしたので、何とか今に至っています。感謝です。最後に、働くうえで大切にしていることは、誰に対しても変わらない姿勢で関わっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

橋本 奈実

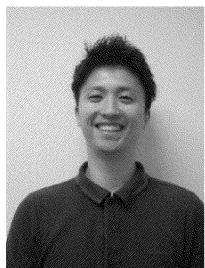
(グループホーム) 一昨年の12月からお世話になっております、橋本奈実と申します。今年で23歳になり、

最年少でございます。好きな食べ物はチーズで、さまざまな料理に活用することが好きです！

趣味は音楽鑑賞でいろんなジャンルの音楽を聴いたり、ライブにいったりと音楽で充実しています。休日はライブに行き、リラックスしています。行ってみたい場所はフランスのセーヌ川です。とてもきれいで一度行ってみたいと思っていました！私が思うふれあいの里は、十人十色、みんながそれぞれ個性を生かせる場所であるということです。今後働いて行く上でふれあいの里の1色として自分にしかない個性を生かしながら、利用者の方々と楽しく過ごしていきたいと思います。



船曳 敏彦
(グループホーム)



ふれあいの里元気印でお馴染みの船曳敏彦です！初めてふれあいの里に来てから2年近く経ち、今年で26歳になります。自己紹介ということですが、好きな食べ物はこの世の食材全てを愛しており、「好き」か「とても好き」のどちらかで分類しています。趣味はこれといってないのですが、終始鼻歌を歌っています。行ってみたい場所は沖縄です。ダイビングがしたいですね♪職場の印象は「カジュアルな雰囲気、というかみんなマイペースやなあ」が第一印象です(笑)。ですが、こんなにも自分らしく楽しく働ける職場に巡り会えてとても幸せだと実感しています。これからも「メンバーさんや入居者の方々等に信頼してもらえる職員」を目指して日々精進していくつもりです！これからも宜しくお願ひします！

松崎 智生

(地域活動支援センター) 23歳です。好きな食べ物は塩辛いものです。あとビールです。コンビニで塩辛いもの



を探しています。趣味は、音楽を聞くこととカラオケです。行ってみたい場所は高いところです。高層ビルや山など高ければ、どこでもいいです。自分が普段見ている景色が小さくなついくと気持ちよくなります。それと同時に自然の大きさを感じられます。素晴らしい！職場の第一印象は、みなさんがとにかく忙しい。けどなぜかいきいきされているな。という感じでした。忙しい中で皆さんそれぞれの個性を發揮していて面白いと思いました。からの目標は、メリハリのある仕事をすることです。よろしくお願ひします。

藤本 里津子

(グループホーム)



名前は藤本里津子といいます。年齢は40代です。よろしくお願ひします。好きな食べ物は餃子、キムチなど辛いもの、元気が出る食べ物が大好きです。趣味についてですが、今は寝ることかなと思います。でも、昔はいろいろとありました！行ってみたい場所は、海外と日本わかれますが、アンコールワット、インドネシアのバリ島、日本では富士山、九州地方で砂蒸し風呂も体験したいです。最近には厳島神社も行くことが出来ました。話は変わりますが、ふれあいの里を初めて見た時の印象は、作業場の機械の数が多いことに驚きました。最後に職員としての目標は、どの利用者の方にもお話をさせていただけて、話してよかったですと思つてもらえることです。まだまだ未熟ですがよろしくお願ひいたします

津石 智美

(港区障がい者相談支援センター) 20代です。復帰協には昨年からお世話

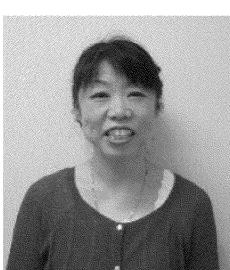


になっております。今は港区障がい者相談支援センターで働かせて頂いております。好きな食べ物はたらこのパスタです！大葉がのっていると尚良いです！趣味は買い物や音楽を聴くのが好きで、週末はよく友達とショッピングに出かけます。今行ってみたいところはシンガポールへ旅行に行きたいなと思っています。ふれあいの里の皆さんや、復帰協の職員の方々はとても温かく、私が働かせて頂く事になった初日からたくさんの方々に声をかけて頂き、すごく嬉しかったことを今でも覚えています。私は復帰協の「人」に惹かれてここで働きたい！と思いました。働いていくうえで、専門職としてのスキルや知識も必要ですが、常に寄り添う姿勢を大切にしながら何ができるかを考えていくことを目標に、これからも頑張りたいと思います。

和田 有津子 名前：和田有津子（わだあつこ）・54歳
(地域活動支援センター) 食べ物に好き嫌いはありません。趣味は、日曜大工や服作りなど、ものづくりが大好きです。今、行ってみたい場所は、この夏だけOPENする『2016ふなっしーBeach House』です。職場の第一印象は、職員が和気あいあいとしていることです。一つの建物に、グループホーム、就B、地活があり、それぞれの職員が同じ事務所内で働いているので、連絡や相談がスムーズなのです。目の前の目標として、相談支援専門員として、役目をこなしていくことです。精神保健福祉士の資格を取ってからの10年間で、ずいぶん変わった法律やサービスを勉強します。



上松 夏美 4月からふれあいの里、就労支援B型でお世話になっている上松夏美、41歳ド新人です。
(就労継続支援 B型) 好きな食べ物は、コロッケ、ソフトクリームです。デパートの物産展めぐりも好きで、ご当地のソフトクリームをよく食べてます。行ってみたいと思っているところは、日本の中で今まで行ったことの無いところです。1番には沖縄で、きれいな海を見てみたいです。ふれあいの里では、利用者さんや職員の方々に教えていただくことばかりで毎日ドキドキしていますが、利用者さんにとって安心して話ができる存在になれたらと思っております。



施設運営事業 ふれあいの里

ふれあいの里で実施している事業のうち、就労継続支援B型事業、地域活動支援センター（生活支援型）、共同生活援助事業の取り組みについて以下にご報告させていただきます。

就労継続支援B型 就労継続支援B型では昨年度、1名の方が一般就労をし、4名の方が就労継続支援A型など他の種別の事業へステップアップをしていくなど動きのある一年でした。また現在も、就労移行支援への見学を行うなど支援計画に基づいてそれぞれが描く就労に向けて取り組んでいます。

さて、ふれあいの里が授産施設として運営をしていた頃からお付き合いをさせていただいている、扇屋コーポレーション様から今年も食事交流会にご招待していただきました。5月19日17時より備長扇屋西中島南方駅前店にて開催され、メンバー12名、スタッフ3名の計15名で参加させていただきました。

この食事会は普段、一生懸命漣き上げをしている製品が実際の店舗で使用されているのを見ることができる貴重な機会です。自主製品はお祭りなどで販売をするものの、その後どう活かされているなどを見ることがなかなか難しいですが扇屋様では店内に商品ポップとして貼っていただいているので実際に製作をし、出荷した商品のその後を見ることが出来ます。そして、この交流会が毎年開催される事でメンバーさん

一人一人が誇りを持って作業できるきっかけになっているようです。

共同生活援助 現在、ほうゆうでは、長期入院から退院し入居される方が多数見受けられます。昨今、地域移行の制度も発展してきており、地域の生活を知り、体験してから居住の場へ移されることも増えてきました。

また、ほうゆうには一人暮らしを目指しながら入居されている方がたくさんおられます。しかし、20年、30年と入院しており、地域での生活経験が乏しい方は、コンビニや公共交通機関も目新しく感じ、まさに「浦島太郎」のような状態を感じる方もおられます。そのため、私たちは一人一人の「困った」に寄り添いながら一緒に生活を作っています。

ある入居者の方で退院当初は、食事を買いに行くこと、通所すること、様々なことに不安を感じ同行を求めていた方が、気づけば一人で「今日は〇〇で買い物してきたよ」等と言った声を聞くと、皆さんのがたくましさに感銘を受けることがあります。

一昔前に比べると、社会的入院の解消は唄われてきていますが、まだまだ長期入院の現実がなくなった訳ではありません。様々な時代背景の裏側で法制度がめまぐるしく変化していく中、戸惑われる事や支援を求める声があがっており、今後も増えることが考えられます。私たちは、その状況の中で柔軟に対応しながら、その人達が望む生活に寄り添い、一緒に考え、創造していくける支援者でありたいと考えています。

地域活動支援センター 昨年度は新しい職員も多く、利用者のみなさんも慣れるまで戸惑われたかと思います。昨年度の反省として、外出の機会が少なかった事が挙げられます。

その改善の第一歩として、『お散歩レク』を始めました。お散歩レクは、外出することはもちろんですが、歩くこと(運動不足解消)も大きな狙いとして実施しています。そして、散歩をするだけではなく、楽しんでもらえるように企画をしています。



▲扇屋(西中島南方駅前店)での集合写真。

(就労継続支援B型)



ホットケーキ作りの様子。
△ふれあいクッキング

一人で行きづらい場所にお散歩しお買い物したり、ご飯を食べたりなど、みんなで行くことによって運動している感がなくなり、1人での外出の自信の第1歩となるように企画しています。

もう一つ新たな取り組みとして、月1回開催で、『ふれあいクッキング』も始めました。ふれあいクッキングは、参加する人全員で楽しくクッキングするのですが、自分の分は自分で作ります。だから同じメニューでも、個性があります。5月はホットケーキを作ったのですが、形や大きさ、トッピングもそれぞれでした。毎月開催ですので、季節ごとに特別メニューも企画します。

この他にも7月にはスパワールド、8月はバーベキューとイベントがたくさんあります。今後も利用者さんに楽しんでもらえるレクを企画、運営していきたいと思います。



▲お散歩レクの様子。

(地域活動支援センター)

ふれあいの里

〒557-0063 大阪市西成区南津守1-4-46
地域活動支援センター TEL:06-6659-2672 FAX:06-6659-2673
就労継続支援B型 TEL:06-6659-2681 FAX:06-6659-2705
共同生活援助(ほうゆう) TEL:06-6659-2815 FAX:06-6659-2673